

をまとめて公表しており、その中で紹介されている地震による被害の写真でございます。津波による影響の可能性もあるかとは思いますが、地震影響ということで紹介されている写真でございます。タンクの座屈、あるいは漏えいというようなところ、それから、配管のずれだとか、そういったところが発生しているということでございます。さりながら、これらは耐震性の低いクラスのものでの損傷ということで確認がされております。

続きまして、7ページ目でございますけれども、福島第一原子力発電所の地震直後の状況ということで、警報がどういった状況で出ていたのかということで申し上げますと、特に電源喪失によるものと思われる警報以外、冷却材の喪失、あるいは放射性物質が漏れているというような兆候を示す警報は出ていない。それから、下にも幾つかのパラメータの事例を紹介しておりますけれども、異常を示すような状況のパラメータは確認できていないということでございまして、基本的な安全性の機能というものは確保されていたのではないかと考えられます。

8ページ目をごらんください。ここからは、いろいろなところで、地震影響で配管が破断している、容器が損傷している、あるいは異常が生じているのではないかとというような御指摘がございますので、そういった点について、私どもで、現時点でわかる範囲で検証した結果について、数枚にわたって御紹介したいと思います。当然のことながら、まだ私どもで完全に検証ができていないわけではございませんので、現状、我々の方で、ここまでわかっている、あるいはこうではないかと考えられるところを御紹介しており、引き続き検証が必要であるというところは変わりないかと考えております。

では、9ページ目をごらんください。1号機の非常用復水器につきまして、これは前回、冷却系の議論でも御紹介はさせていただきましたけれども、1号機では地震直後にICが自動起動したということでございます。その後、左下のチャートにございますような、赤い線で紹介しておりますけれども、圧力調整を行うために手動での操作も行っていただいております。これとの比較ということで、前回も御紹介いたしましたけれども、敦賀の1号機での操作事例を参考として、青い線で紹介しております。こちらも手動で操作をして、6から7の間での圧力調整を行っているということでございます。

こういった操作が本当に破断がなく、その機能がこの挙動につながっているかどうかということについて、今回、JNESで解析をしていただいておりますので、この点につきまして、これから少し時間をいただいて、資料3-2で御紹介をさせていただきたいと思っております。では、JNESさん、お願いします。

○JNES（小西） それでは、資料3-2で非常用復水器作動時の原子炉挙動を安全解析コードで解析しましたので、その結果を御報告いたします。

1ページ目に目次がありますが、報告内容は、まず、実測値データ、それから、解析体系、4で初期事象について解析した結果を御報告します。5番目の内容は、ICが作動したときに、かなり初期に圧力低下が大きかったということで、漏えいの可能性が議論されましたので、その兆候は特になのですが、あえて漏えいを仮定して解析からどういうこと